

- 問1 近畿地方のある府県の統計資料において、夜間人口が約258万人であるのに対し、昼間人口は約263万人となっており、昼間人口比率が100パーセントをわずかに上回っています。この数値データから読み取れる京都府の状況について、正しい説明はどれですか。 (2026年 山口県公立入試 類似)
1. 京都府から大阪府などの都市部へ働きに出る人が多いため、昼間の人口が夜間の居住者数を下回っている。
 2. 京都府内での出生率が急激に上昇したため、年少人口の割合が昼夜を問わず増加している。
 3. 周辺の府県から京都府内の学校や職場へ通う人が多いため、昼間の人口が夜間の居住者数を上回っている。
 4. 京都府内の住宅開発が進んだ結果、夜間に居住する人口が昼間の活動人口よりも大幅に多くなっている。
- 問2 近年、多くの地方自治体では過疎化への対策として、都市部からの地方移住を支援する取り組みを強化しています。このうち、一度は都市部へ流出した若者が「自分の出身地」へ戻って定住することを指す用語として、正しいものはどれですか。 (2023年 鳥取県公立入試 類似)
1. Jターン現象
 2. Iターン現象
 3. Uターン現象
 4. 過密現象
- 問3 宮崎平野や高知平野などの冬でも温暖な地域において、ビニールハウスなどを活用して作物の成長を早め、他の産地よりも出荷時期を早めることで収益を上げる栽培方法を何といいますか。 (2017年 愛媛県公立入試 類似)
1. 促成栽培
 2. 抑制栽培
 3. 近郊農業
 4. 二毛作
- 問4 日本の太平洋沖合では、南からの暖かい海流と北からの冷たい海流がぶつかり合う「潮目（潮境）」が形成されます。この海域が、世界有数の良好な漁場となる理由として最も適切な説明を選びなさい。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
1. 寒流と暖流が混ざり合うことでプランクトンが発生しやすくなり、それらを餌とする両海流の魚が集まるため
 2. 水深200mまでの浅い海底が続くことで太陽光が届きやすく、魚の産卵に適した環境が整っているため
 3. 一年を通じて水温が一定に保たれるため、季節による魚の移動がなく安定した漁獲が可能になるため
 4. 暖流が深層の栄養分を海面に運び上げることで、大型の回遊魚が常に一定の場所に留まる性質を持つため
- 問5 日本の輸入に関する統計を確認すると、1960年の輸入総額は約1.6兆円でしたが、2017年には約75.4兆円へと劇的に増加しています。この期間における日本の輸入の変化や特徴について述べた文として、正しいものを選択してください。 (2020年 香川県公立入試 類似)
1. 資源の再利用が進んだため、鉄鉱石や石炭の輸入額は1960年と比べてほぼ横ばいである。
 2. 日本の農業技術が向上したため、食料品の輸入額は1960年よりも減少した。
 3. 海外の工業化が進んだことで、石油などの原燃料の輸入額は1960年よりも減少した。
 4. 国内の生産コストの上昇や企業の海外進出により、製品輸入の割合が増加した。
- 問6 日本国内の発電所数を比較すると、火力発電所が全国に数十か所程度であるのに対し、太陽光発電所は全国に数千か所以上設置されています。このように、太陽光発電が全国各地に極めて多く設置されている理由として適切なものはどれですか。 (2019年 岩手県公立入試 類似)
1. 発電コストにおいて、火力発電よりも燃料費や維持管理費が高くなるように設定されているため
 2. 一箇所あたりの総発電量が火力発電よりも大きく、効率的に全国の電力を賄うことができるため
 3. 大規模な設備を必要とする火力発電に比べて建設が容易であり、小規模な土地でも設置可能なため
 4. 天候や季節に関わらず一定の電力を供給できるため、どのような地域でも安定した運用が可能なため
- 問7 近年、日本を訪れる外国人観光客が急増していますが、その背景には交通網の発達や国際的な評価の高まりなど、さまざまな要因があります。外国人観光客が増加する要因として、経済や交通、文化の側面から説明したものととして「適当でないもの」を次の中から選びなさい。 (2019年 沖縄県公立入試 類似)
1. 他国の通貨に対して円高が進み、日本での宿泊費や食費が割安になること
 2. 格安航空会社（LCC）の直行便が増加し、日本への移動コストが低下すること
 3. 他国の通貨に対して円安が進み、日本での買い物やサービスが割安になること
 4. 日本独自の伝統文化や自然環境が世界遺産に登録され、国際的な知名度が向上すること
- 問8 1985年から2010年にかけての日本における米の需給バランスについて、生産量は減少傾向にありますが、自給率は約100%という高い水準で推移しています。このように生産量が減っているにもかかわらず、自給率が維持されている理由として最も適切な説明はどれか。 (2016年 香川県公立入試 類似)
1. 政府が米の輸出を強力に推進し、海外市場での需要を拡大させたため
 2. パンや麺類の消費が減り、国民の米に対する需要が再び高まったため
 3. 品種改良によって単位面積あたりの収穫量が飛躍的に増加したため
 4. 食生活の変化によって米の消費量も並行して減少しているため
- 問9 日本の耕地面積構成比について、全国平均では「田」が約55パーセントを占めていますが、神奈川県小田原市のように「田」の割合がわずか5パーセント程度と極めて低く、全国平均を大幅に上回る割合で別の土地利用が行われている地域があります。小田原市において、このように「田」に代わって高い割合を占めている耕地の種類として正しいものはどれですか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
1. 茶畑
 2. 牧草地
 3. 果樹園
 4. 桑畑
- 問10 近年では、かつて見られたドーナツ化現象とは対照的に、一度は郊外へ流出した人口が再び都心部へ戻ってくる「都心回帰」という現象が見られます。この背景として考えられる、都市の再開発に関する具体的な動きはどれですか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 都心の工場跡地などに大規模な超高層マンションが建設され、職場に近い利便性の高い住環境が整備されたこと。
 2. 山間部の過疎化を防ぐために、都心のオフィスをすべて地方へ移転させ、都心部を巨大な公園にしたこと。
 3. 郊外のニュータウンにある住宅をすべて商業施設に建て替え、住居を都心の地下街に集約させたこと。
 4. 地価がさらに高騰し続けた結果、一般世帯が家を持つことを諦め、都心の路上やオフィスに住み着いたこと。
- 問11 「育てる漁業」には「養殖業」と「栽培漁業」がありますが、栽培漁業の説明として最も適切なものはどれですか。 (2021年 宮城県公立入試 類似)
1. 卵からふ化させた稚魚を外敵に襲われにくい大きさまで育ててから、海や川に放して資源の回復を図ること。
 2. 網などで仕切った一定の場所で、稚魚を出荷できる大きさになるまでエサを与えて育て続けること。
 3. 稚魚を放流した後、その魚が別の海域へ移動しないよう、音響などのハイクテク技術で誘導し続けること。
 4. 海外から輸入した稚魚を日本の沿岸部で成魚にし、加工品として輸出すること。
- 問12 原油や天然ガスなどの鉱産資源の輸出が総輸出額の大部分を占める国において、このような貿易構造がもたらす影響や課題に関する説明として最も適切なものを選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. 製品の加工度の高さにより、常に安定した利益を得ることができる。
 2. 国内の工業化が急速に進むため、機械類などの輸出品目が多角化しやすい。
 3. 資源の国際価格の変動が、自国の経済や国家財政に直接大きな影響を与えやすい。
 4. 天候不順や害虫の発生によって、毎年の輸出品の生産量が大きく変化しやすい。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 周辺の府県から京都府内の学校や職場へ通う人が多いため、昼間の人口が夜間の居住者数を上回っている。	京都府のように昼間人口比率が100パーセントを超えている自治体は、中心業務地区や文教地区としての機能を持っており、周辺地域（滋賀県や奈良県など）から多くの通勤・通学者を受け入れていることを示しています。夜間人口（居住者）よりも、実際に昼間にその場所で活動している人数の方が多いという実態を反映しています。
問2	答え 3 Uターン現象	地方から大都市圏へ進学や就職のために移り住んだ後、再び元の出身地に戻って就業・生活することを指します。人口の東京一極集中を是正し、地方を活性化させるための重要な人口移動の形態として注目されています。他の選択肢であるJターンは「出身地近くの都市への移住」、Iターンは「出身地以外の地方への移住」を指すため、移動先が出身地であるかどうかが判断のポイントとなります。
問3	答え 1 促成栽培	黒潮の影響を受ける宮崎県や高知県などの温暖な気候を活かした農業の形態です。ビニールハウスなどの施設を利用して、本来の収穫時期よりも早い時期に野菜（ピーマン、ナス、キュウリなど）を栽培します。これにより、他の産地の出荷が少ない時期に市場へ供給できるため、農産物を高い価格で販売することが可能になります。
問4	答え 1 寒流と暖流が混ざり合うことでプランクトンが発生しやすくなり、それらを餌とする両海流の魚が集まるため	日本の太平洋沖、特に東北地方の沖合では、南からの黒潮（暖流）と北からの親潮（寒流）がぶつかり合います。この境界は潮目と呼ばれ、性質の異なる海水が混ざり合うことで魚の餌となるプランクトンが大量に発生します。その結果、暖流系の魚と寒流系の魚の両方が集まる豊かな漁場となります。石巻や銚子といった主要な漁港がこの海域に近いのも、この自然環境が背景にあります。
問5	答え 4 国内の生産コストの上昇や企業の海外進出により、製品輸入の割合が増加した。	日本の輸入は、かつては原材料や燃料を輸入して工業製品を輸出する「加工貿易」が中心でしたが、現代では衣類や家電製品といった製品輸入の割合が大きく高まっています。一方で、依然としてエネルギー資源の大部分を海外に依存しているため、石油などの原燃料の輸入額も非常に大きな規模で推移しており、輸入総額は1960年代と比較して大幅に増加しています。
問6	答え 3 大規模な設備を必要とする火力発電に比べて建設が容易であり、小規模な土地でも設置可能なため	太陽光発電は火力発電所のような巨大なボイラーやタービンといった複雑な設備を必要とせず、一箇所あたりの建設が比較的容易です。このため、企業の工場、公共施設の屋根、遊休地など、全国各地の多様な場所に多数設置することが可能になっています。ただし、設置数が多い一方で、一箇所あたりの発電能力は大規模な火力発電所に比べると小さいという特徴があります。
問7	答え 1 他国の通貨に対して円高が進み、日本での宿泊費や食費が割安になること	円高とは、他国の通貨に対して日本円の価値が上がることです。この場合、外国人観光客にとっては日本での旅費が以前よりも多く必要になる（割高になる）ため、観光客の増加を抑制する要因となります。反対に、円安が進むと外国人にとって日本での滞在費用が割安になり、観光客が増加する大きな要因となります。
問8	答え 4 食生活の変化によって米の消費量も並行して減少しているため	日本では、食の欧米化や多様化に伴い、国民一人あたりの米の消費量が年々減少しています。自給率は「国内生産量÷国内消費量」で算出されるため、生産量が減少しても、それと同じペースで消費量も減少していることから、結果として自給率は約100%という高い数値を維持することになります。
問9	答え 3 果樹園	全国的には主食である米を作るための「田」が耕地の半分以上を占めるのが一般的ですが、小田原市のように傾斜地が多い地域や、ミカン栽培などの果樹農業が盛んな地域では、耕地面積構成比において果樹園が占める割合が非常に高くなるという特色があります。これは地形や気候といった自然条件を活かした土地利用の結果です。
問10	答え 1 都心の工場跡地などに大規模な超高層マンションが建設され、職場に近い利便性の高い住環境が整備されたこと。	1990年代後半以降、バブル崩壊による地価の下落や、都心の工場・倉庫跡地の再開発によって、利便性の高い都心部に大規模なマンションが次々と建設されました。共働き世帯の増加などを背景に、通勤時間を短縮できる「職住近接」のライフスタイルが好まれるようになったことで、一度減少した都心部の居住人口が再び増加に転じています。
問11	答え 1 卵からふ化させた稚魚を外敵に襲われにくい大きさまで育ててから、海や川に放して資源の回復を図ること。	栽培漁業は、自然界での生存率が低い稚魚の時期だけを人の手で管理し、その後は自然の生態系に委ねる手法です。これに対し、出荷まで一貫して生け簀などで管理し続ける手法は養殖業と呼ばれます。栽培漁業は、減少した漁獲量を回復させ、持続可能な漁業を維持するための重要な手段となっています。
問12	答え 3 資源の国際価格の変動が、自国の経済や国家財政に直接大きな影響を与えやすい。	特定鉱産資源の輸出に依存する国では、その資源の国際価格が下落した際に輸出額が激減し、国家財政や国内経済が不安定になりやすいという課題があります。